

## 【水の作文大賞】

### 熊本の水

熊本県 真和中学校 二年 島津 優凜花

私たちが住んでいる熊本は「水の国」と呼ばれ、地下水が豊富にある。「水の惑星」と呼ばれている地球で、いつでも美味しい水が飲めるということは、熊本県民としての誇りの一つだと思っている。

私が特に水のありがたみを知った出来事がある。それは、去年の年末のことだった。家の水道が壊れたのだ。わたしは熊本地震のときの記憶が鮮明ではなく、すぐに祖父母の家に行ったようで、水に困る、という経験をあまりしたことがなかった。実際に、水が出ない生活というのは苦しかった。料理はや洗い物、年末の大掃除など自分たちが当たり前にやっていたことができなくなってしまった。そして、水が使える生活を送れることが当たり前になってしまっていることが少し怖く感じてしまった。これが、私が水の大切さを実感した出来事だ。

中学一年生の三学期、環境出前講座という授業があった。熊本海、川、地下水などたくさんのお話を聞き、たくさんを知ることができた。その中でも私は、熊本に住む生物のことが印象に残っている。熊本は水が豊かであると同時に、水生生物もたくさん存在する。その中で、熊本の絶滅危惧種の数は約四十九種もいる。私は、このことにとっても驚いた。熊本は、水だけでなく、豊かな生物もたくさん生息していることを今まで知らなかった。そして、あることを思った。人間の水の使い方は、私たち人間だけでなく、海や川などに住んでいる生物にも影響するのではないか。そう思うと、そこに住んでいる生物たちに申し訳ない気持ちでいっぱいになった。日常生活の水の使い方など、水について見直したいと思うきっかけになった。

これらの出来事から、私は日常生活について見直した。どこかで無駄遣いをしていないか、もっと節約できることがあるのではないか。実際に見直してみると、いくつか改善できそうなところを見つけた。一つ目は、歯磨きをするときの水の無駄遣いだ。歯を磨いているときに、つい

水を出しっぱなしにしているときがあった。そして、うがいのときにも、水を流したままにしているときがあった。だから、使い終わったら、すぐに水を止め、コップを使用するようになった。二つ目は、お風呂でシャワーを流しっぱなしにしていることだ。特に冬は寒くて、ついシャワーを流したままにしている。しかし、水の大切さを深く理解したあとには、やはり無駄遣いだと思い、きちんとシャワーを止めるようにしている。三つ目は、食器を洗うときのことだ。特に油がついたフライパンなどは落とすのに大量の水を使ってしまう。そこで、環境出前講座で知ったことを実践しようと思った。それは紙で油をふき取ってから洗うという方法だ。少しふき取るだけでも洗うのが楽になり、水の使用量も大きく減った。

熊本には、水が豊富にある。でも、だからと言って、水を無駄遣いしているわけではない。むしろ逆だ。水を大切にし、そこに住んでいる生物たちも守っていかねければならない。そして、この恵まれた熊本の水を未来に引き継いでいくために、私たちは、できることを具体的に見つけ、行動することが大切だ。これからは、水を守るために行動していきたい。「熊本の水は、私たちの誇り」そう胸を張って言い続けられるように。